

【参加数】

会 員 3,522名 賛助会員 479名 非会員 195名 学 生 173名
 企業関係者 1,733名 市民公開講座 818名 情報交換会 約560名

【総括】

・開会式

開会式と展示会場オープニングセレモニーを一か所で開催した。企業展示ホール前の通路で実施したため若干狭く感じたが、おかげさまで多くの方のご参加をいただき盛大な開会式となった。

・公開講演

著名人の講演を企画した。天候が悪く豪雨となり、集客に不安があったが、入場者数は818名と盛況となった。前回同様公開講演会場は1,000名規模の会場が必要である。

・一般演題

昨年よりは微減だがほぼ同数の演題数となった。昨年の6月と同時期開催だったが、再募集・再々募集を行い演題数の確保ができた。

・特別企画

教育講演・シンポジウム・フォーラム等は静臨技学術部門を中心に、全国の会員の協力のもと、検査業界の現状に即した盛会な特別企画となった。

・企業展示

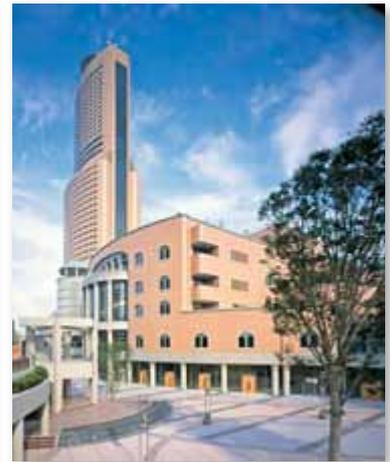
昨年の幕張の83社とまではいかなかったが、近い出展数を確保できた。地方開催ということで心配をしたが努力の甲斐もあって79社の協力を得られた。締め切り後も数社の希望があったが、会場の都合でお断りをした経緯もあった。展示会場は、昨年ほどの十分な広さではなかったが、それが適度なコンパクト感ある配置に集約でき、常に来場者が多く見えて、大盛況に感じ企業側から好評を得た。別棟に企業関係者専用控室等を配置し休憩時は移動してもらうことがあったが、メリハリもできて企業としても使い勝手がよかったようである。

・学会情報交換会

メインホテル内の宴会場にて開催した。エントランスホールを含め600名規模の会場だったが、定員に近い参加者があり、料理は足りていたが、すこし圧迫感を与えたかもしれない。静岡県らしいおもてなしと特色を生かした情報交換会を目指し、メニューやパフォーマンスを披露した。参加者の皆様からは「さすが！静岡県らしい斬新で面白い情報交換会だった。」と嬉しい言葉を頂いた。

参加者数が4,300名を超える盛会な学会を静岡県で開催することができた。学会開催にあたり、静岡県や浜松市、県医師会、そして地元、静岡県臨床衛生検査技師会会員の絶大な協力があったからこそ成した学会であった。





アクトシティ浜松

第67回日本医学検査学会を終えて



学会長 山口 浩 司 (静臨技会長)



第67回日本医学検査学会を平成30年5月12日(土)・13日(日)の両日、静岡県浜松市のアクトシティ浜松・オークラアクトシティホテル浜松・ホテルクラウンパレス浜松で開催いたしました。

今学会のテーマは、新たなステージで活躍する未来の姿を具体的にイメージする場としたいと考え、メインテーマを「Let's go this way —その道を進もう—」、サブテーマは「多様な役割のなかで、新たな存在価値を示す」といたしました。時代の変化と共に医療従事者に求められる役割も変化し、これからの臨床検査技師の人づくりやサービス提供をどのように行っていくか、ということに様々な道があるということの意味しました。

今学会は、がんゲノム関連や医療法改正など話題の内容が数多く企画され、両日共に多くの会場で満席となる程に盛況であり、全般を通して充実した実りある学会が開催できたと感じています。

シンポジウムでは初めての試みとなる日臨技と(一社)日本衛生検査所協会とのコラボレーション企画を「検査の委託や受託における精度管理向上を目指して」と題し、それぞれの立場から発表と質疑応答が行なわれました。相互理解を深めたうえで連携を強化し委託と受託の一連における更なる精度管理向上を目指していくために、今後もこの企画が継続されることを望みます。また、シミュレーターを用いた“検体採取実践セミナー”も、初めての試みでしたが参加された会員には良い企画だったとの評価をいただきました。

また、Wマコト先生や齋藤孝先生のご講演は、コミュニケーション能力の向上に向けてお役に立てたのではないのでしょうか。両先生の会場は笑の絶えない楽しい雰囲気にも包まれていました。

学会長講演でお伝えしましたが、人生100年時代においても価値ある業務で活躍し続けるために、主体性のある臨床検査技師を目指すことを心掛けていただきたいと思います。意志あるところに必ず道は開けます！

さて、次回の第68回日本医学検査学会は(一社)山口県臨床検査技師会の渋田秀美学会長のもと、2019年5月18日(土)・19日(日)に下関市で開催されます。多くの皆様のご参加により盛会に開催されますことを祈念申し上げます。

末筆ではございますが、本学会の開催にあたりご指導をいただきました日臨技の皆様、中部圏支部ならびに静臨技役員や学術部門の皆様、運営に携わりました関係者の皆様、ご参加いただきました全国の会員・賛助会員の皆様、多大なるご協力を賜りました各協賛企業の皆様に心よりお礼を申し上げます。

37年ぶりの静岡県開催を終えて！

学会実行委員長 **伊藤喜章**（静臨技 事務局長）
 学会事務局長 **蘭田明広**（静臨技 副会長）

夏到来を感じさせた土曜日、打って変わって曇天から豪雨となった日曜日、そんな5月の二日間（12日、13日）に浜松において第67回日本医学検査学会が開催されました。初日の朝礼では日臨技宮島会長、および山口学会長にありがたいお話を頂戴し、諸注意の後、蘭田学会事務局長の「がんばろう！」の気合い入れで学会実行委員一同、いち早いスタートを切りました。その後は会場準備に専念し、定刻に展示イベントホール前にて開会のテープカットを行うことが出来ました。



開会式：テープカット

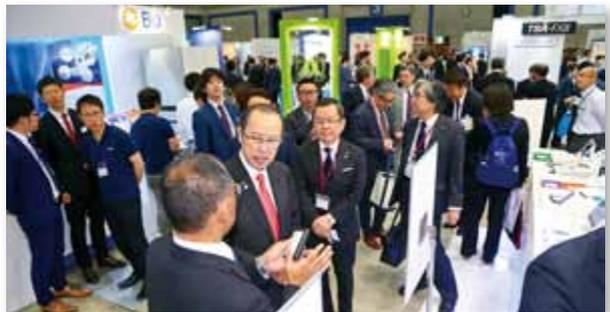
今学会は会員の事前登録が2,025名と多く、受付の渋滞がある程度緩和できましたが、やはり初日朝一番は、当日の参加者及びランチョンチケットの取得に多くの方が見え、例年同様の混雑はあったものの大きなトラブルもなく終えることができました。最終的には学生173名を含め4,300人余の来場者を数えるほどの大盛況で、自分たちの目標値も達成でき、実行委員一同安堵しております。特に初動から1年以上も陣頭指揮にあたった山口学会長の慶びは我々以上にひとしおのことと思います。一般演題563題、学会長講演や基調講演のほか、招待講演2題、公開講演1題、教育講演10題、ほかシンポジウムなどの特別演題が34分野80演題と、幅広い分野で開催ができたことに大変満足しております。特に一般の方に開放する市民公開講演は、悪天候の中、集客に少し不安はあり



公開講演：齋藤孝先生 熱弁

ましたが、案じていた心配をよそに818名の参加があり、会場は大いに盛り上がりました。講演終了後、会場からアンコールが掛かり、齋藤先生もご多忙な日程にもかかわらず再び登壇、追加講演して頂いたのは非常に印象的でした。学会初日夜の情報交換会も多数の方にご参加いただき、非常に盛り上がりを見せました。ただ、会場が500人規模の広さであったため、想定を超える参加者により皆様にその圧迫感で少し窮屈な思いをさせてしまいましたこと、改めてお詫び申し上げます。

また、企業展示は79社、ランチョン・スイーツの共催セミナーには30社と、大変多くの企業・賛助会員の皆様にご協力いただきましたこと、本当に感謝しております。ご支援ご協力ありがとうございました。おかげ様で静岡流の“おもてなし”が出来ました。



展示企業へお礼の訪問：宮島会長・山口学会長

最後になりますが、今学会の準備期間中や会期中に、日臨技理事や事務局の皆様には懇切丁寧なご指導、ご協力を頂き、本当にありがとうございました。また、第65回開催の兵庫県実行委員会ならびに前回開催の千葉県実行委員会の皆様には円滑な学会準備に向け、多大なご指導ご鞭撻を頂き、誠にありがとうございました。今回の成功は、皆様のご協力あっての賜物と深く感謝申し上げます。

学会日程表

2018年5月11日(金)

施設名	アクトシティ浜松											オークラアクトシティホテル浜松				
	大ホール・中ホール			コンgresセンター						研修交流センター		第9会場	第10会場	第11会場		
会場名	総合受付	PCセンター	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場	第6会場			第7会場	第8会場	第9会場	第10会場	第11会場		
階部屋名	B1F/1F ロビー・コンgresセンター エントランスロビー	1F 大ホール ホワイエ	B1F 中ホール	3F 31会議室	4F 41会議室	4F 43 会議室	4F 44 会議室	5F 52 会議室	5F 53 会議室	5F 54 会議室	2F 音楽工房 ホール	6F 62研修 交流室	3F チェルシーI	3F チェルシーII	3F メイフェア	
8:00																
9:00																
10:00																
11:00																
12:00			行列のできるスキルアップ研修会 Part IX 受付場所：アクトシティ浜松 81F 第2会場（中ホール）ロビー 受付開始時間は各講座開始1時間前からとなります													
13:00	参加受付 12:00~17:00 日臨検会員、 非会員 受付 B1F ロビー	PC受付 12:00~17:00		13:00~17:00 スキルアップ 臨床血液 末梢血液検査を マスターし、血 液疾患を見落と さない知識を身 につけよう！								13:30~19:00 スキルアップ 臨床一般				
14:00	賛助会員、 関連学会、 団体 受付 1F コンgresセンター エントランスロビー		14:00~18:00 スキルアップ 病理細胞 病理検体取扱い マニュアルの神 髓を探る ～マニュアルに 込められた想い、 そして新たな 未来への メッセージ～	14:00~18:00 スキルアップ 生物化学分析 認定臨床化学・ 免疫化学精度保 証管理検査技師 のための講習会	14:00~16:00 スキル アップ 認定救 急検査 技師	14:00~18:00 スキル アップ 認定認 知症領 域検査 技師 「事件は現 場で起きて いる！」その 血腫測定、 大丈夫？」 ～血腫測定 におけるピ ットフォール を学ぶ～	14:00~15:30 スキル アップ POCセミナー				14:00~18:00 スキルアップ 臨床生理 実践で役立つ 超音波検査	14:00~17:30 スキルアップ 臨床微生物 質量分析・PCR があっても欠か せない従来の同 定法				
15:00						救急診療 の安全世 を考へる ～事例に 学び、経 験値を上 げる！～	極めてよ う！ 神経心理 検査									
16:00										15:30~17:00 スキルアップ POC実習室				15:00~17:00 スキルアップ 輸血細胞 治療 輸血検査の定石 と最善の一手	15:00~17:00 スキルアップ 染色体遺伝子 資格試験に チャレンジ!! 「染色体遺伝 子検査認定資格 を取ろう！」	
17:00																
18:00																
19:00																

2018年5月12日(土)

施設名	アクティシティ浜松										
	大ホール・中ホール				コンgresセンター					研修交流センター	
会場名	総合受付	PCセンター	クローク	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場	第6会場	第7会場	第8会場
階部屋名	B1F/1F ロビー・コンgresセンター エントランスロビー	1F 大ホール ホワイエ	B1F ロビー	1F 大ホール	B1F 中ホール	3F 31会議室	4F 41会議室	4F 43・44会議室	5F 52・53・54 会議室	2F 音楽工房 ホール	6F 62研修交流室
8:00											
9:00	参加受付 8:00~17:00 日臨技会員、非会員 受付 B1F ロビー 賛助会員、 関連学会、 団体 受付 1F コンgresセンター エントランスロビー	PC受付 8:00~17:00	クローク受付 8:00~18:30				9:00~9:50 細胞1 243~247	9:00~9:40 微生物1 1~4	9:00~9:30 免疫血清1 75~77	9:00~9:40 生理4 264~267	
10:00				9:20~9:50 学会長講演 山口 浩司	9:20~10:50 シンポジウムⅠ 輸血 小規模医療機関 (在宅輸血を含む) における輸血療法 の問題点	9:20~10:50 シンポジウムⅢ RCPC 臨床検査技師による 臨床検査技師の ためのRCPC	10:00~12:00 シンポジウムⅤ 病理 病理検査技師が 活躍する新たな ステージ ~先端医学の技術が 未知なる病理の 扉をひらく~	9:40~10:20 微生物2 5~8	9:30~10:00 免疫血清2 78~80	9:40~10:20 生理5 268~271	
11:00				11:00~12:00 基調講演 宮島 喜文	11:00~12:00 教育講演Ⅰ 生物化学分析 臨床検査の品格			10:00~11:00 微生物3 9~12	10:00~10:30 免疫血清3 81~83	10:20~10:50 生理6 272~274	
12:00					12:10~13:10 ランチョン セミナー1 シスメックス(株)	12:10~13:10 ランチョン セミナー2 キャノン メディカル システムズ(株)	12:10~13:10 ランチョン セミナー3 株式会社カイン	12:10~13:10 ランチョン セミナー4 ニプロ(株)	12:10~13:10 ランチョン セミナー5 デンカ生研(株)	12:10~13:10 ランチョン セミナー6 ロジュー ダイアグノス ティックス(株)	
13:00				13:30~14:30 招待講演Ⅰ 植田 勝智 Made in Mt. Fuji ふじのくにものづくりに 関連システム ~臨床現場のニーズ を製品化する~	13:20~14:50 シンポジウムⅡ 精度管理 法改正を受けての 検体検査の品質・ 精度管理の あるべき姿	14:00~14:50 在宅医療 527~531	13:20~13:50 病理1 193~195	13:20~14:00 生理1 253~256	13:20~13:50 臨床化学1 152~154	13:20~14:50 シンポジウムⅥ 生理 国際学生 フォーラム	13:20~14:50 生理 生理検査における 精度管理と 安全性の確保
14:00							13:50~14:20 病理2 196~198	14:00~14:40 生理2 257~260	13:50~14:20 臨床化学2 155~157		
15:00							14:20~14:50 病理3 199~201	14:40~15:10 生理3 261~263	14:20~14:50 臨床化学3 158~160		
16:00				16:00~17:00 教育講演 Wマコト ひとを笑顔に導く! 「笑いの五原則」		15:00~16:30 シンポジウムⅣ 在宅 在宅医療における 臨床検査と 臨床検査技師の 医療ニーズ	15:00~15:50 スイーツ セミナー1 中外製薬(株)	15:00~15:50 スイーツ セミナー2 フクダ電子(株)	14:50~15:20 臨床化学4 161~163	15:00~15:50 スイーツ セミナー2 フクダ電子(株)	15:00~16:20 日韓 シンポジウム
17:00					17:10~18:10 学会式典		16:00~16:30 病理4 202~204		15:20~15:50 臨床化学5 164~166		
18:00							16:30~17:00 病理5 205~207				
19:00											

2018年5月13日(日)

施設名	アクトシティ浜松											
	大ホール・中ホール				コンgresセンター				研修交流センター			
会場名	総合受付	PCセンター	クローク	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場	第6会場	第7会場	第8会場	
階部屋名	B1F/1F ロビー・コンgresセンター エントランスロビー	1F 大ホール ホワイエ	B1F ロビー	1F 大ホール	B1F 中ホール	3F 31会議室	4F 41会議室	4F 43・44会議室	5F 52・53・54 会議室	2F 音楽工房 ホール	6F 62研修交流室	
8:00	参加受付 8:00~13:00 日臨床会員、非会員 受付 B1F ロビー 賛助会員、 関連学会、 団体 受付 1F コンgresセンター エントランスロビー	PC受付 8:00~13:00	クローク受付 8:00~15:00									
9:00					8:30~10:00 シンポジウムⅧ 精度管理 検査の委託や 受託における 精度管理向上を 目指して	8:30~10:00 シンポジウムⅪ がん医療 がん医療の これからを考える	8:30~9:10 生理18 319~322	8:30~9:10 生理23 339~342	8:30~9:20 細胞2 248~252	8:30~9:10 病理10 223~226	9:00~9:30 遺伝子・染色体2 440~442	
10:00						9:30~10:00 教育6 487~489	9:30~10:00 教育6 487~489	9:10~9:50 生理19 323~326	9:10~9:50 生理24 343~346	9:20~10:00 病理6 208~211	9:10~9:40 病理11 227~229	9:30~10:00 遺伝子・染色体3 443~445
11:00						10:10~11:50 シンポジウムⅨ 生物化学分析 共用基準範囲と JLAC検査項目 コードの現在と未来 ：臨床検査データの 有効利用に向けて	10:10~11:50 シンポジウムⅩ 臨地実習 臨地実習の在り方 ～求められる 臨地実習とは～	10:40~11:40 教育講演Ⅵ 生物化学分析 検査室からの診療支援 - 夏津浜松病院の 取り組み	10:30~11:10 生理21 331~334	10:30~11:10 生理26 351~354	10:00~10:40 病理7 212~215	9:40~10:20 病理12 230~233
12:00						12:00~13:00 ランチョン セミナー14 富士テレビオ株	12:00~13:00 ランチョン セミナー15 株シノテスト	12:00~13:00 ランチョン セミナー16 バイオ・ラッド ラボラトリーズ株	12:00~13:00 ランチョン セミナー17 ニットーボー メディカル株	12:00~13:00 ランチョン セミナー18 協和メディックス株		
13:00					13:10~14:10 招待講演Ⅱ 轟馬 明 光の可能性を求めて ～2026年、世界を 変える「イ」を～	13:10~14:30 シンポジウムⅫ 病棟業務 患者・多職種から 求められる 病棟常駐臨床検査技師 ～各地の実践例～	13:10~14:10 教育講演Ⅶ 生理 呼吸器疾患の 病態から検査まで	13:10~13:40 生理28 359~361	13:10~14:10 教育講演Ⅷ 病理 病理医と病理検査技師の コミュニケーション の重要性	13:10~13:40 管理運営6 464~466		
14:00							13:40~14:20 生理29 362~365			13:40~14:20 管理運営7 467~470		
15:00				14:40~15:40 公開講演 齋藤 孝 人間関係をつくる コミュニケーションカ								
16:00												
17:00												
18:00												
19:00												

学会を終えて 学術企画を運営して頂いた学術部門長の皆様より一言

学術特別企画 シンポジウムでの熱心な討論の様子



日臨技 横地副会長



【臨床一般部門】

この度、第67回日本医学検査学会において、行列ができるスキルアップ研修会、教育講演、シンポジウムの3つの企画を計画、進行するという大役を初めて務めさせていただきました。当初は何から手をつけるべきか分からないことばかりで途方に暮れることもありましたが、部門員やその他の他施設の先生方のご助力もあり、無事に3企画を完遂することができました。この得難い貴重な経験をもとに今度は自分が誰かの助けとなればと思います。

山村 一志（株式会社LSIメディエンス） 川井 孝太（磐田市立総合病院）

【臨床検査総合部門】

総合部門では、「検体採取業務の院内実施の現状と問題点」というテーマでシンポジウムを企画しました。鼻腔・咽頭ぬぐい液、皮膚、便について、臨床検査技師が採取を行っている施設の先生方にご講演いただきました。実際に検査を行っている臨床検査技師による検体採取が、検査結果の質を高める要素であるということを、みなさんに理解していただくよい機会になったと思っています。

弘島 大輔（浜松市リハビリテーション病院） 大井 直樹（磐田市立総合病院）

【病理細胞部門】

全国学会という大きなゴールに向けて右も左もわからない中、部門員同士で知恵や人脈を出し合ううちに少しずつ企画の基盤が整い、柱が太くなっていくことを実感しました。企画は参加者があって初めて生きるものであり、そのニーズに沿った立案の難しさを再認識しました。成功も失敗もありましたが、部門内でこの経験を共有しながら、患者さんが安全で安心する病理診断に寄与できる学術活動を今後も継続していきたいと思っています。

山田 清隆（静岡赤十字病院） 渡邊 広明（富士市立中央病院）

【生物化学分析部門】

スキルアップセミナーは全国学会史上初の生物化学分析部門企画を浜松という地方の田舎で開催する冒険に対して臨床化学会の先生に手探りでアポをとり勇気と希望を振り絞って頑張り、大人数の受講者を参集する事が出来ました。学会2日目の午前に生物化学分析部門企画のシンポジウムと教育講演がバッティングして参加者から多くのクレームを浴びましたので被らないスケジュールを最優先するべきと思いました。

春口 公哉（磐田市立総合病院）

【染色体遺伝子部門】

Let's go this way ～その道を進もう～ 大会テーマに相応した学会が開催されたこと、大会長はじめ事務局の皆様のご尽力によるものと存じます。染色体遺伝子部門においても、スキルアップセミナー、教育講演、シンポジウムにはそれぞれに多くの参加をいただき、熱心に聴講され活発な質疑応答へとつなげていただきました。各企画に協力くださった先生方に感謝致すばかりです。

大棟久美江（静岡赤十字病院） 阿部 将人（県立静岡がんセンター）

【臨床血液部門】

浜松で開催された日本医学検査学会が大盛況で行われ、参加者にとって実りのある学会として無事終了したことは、少しでも学会運営に携わることのできたスタッフの一人として大変誇らしく思います。事前準備等に尽力されたスタッフの皆さんには感謝しきれません。私自身、今回の学会で多くのことを学ぶことができました。この経験を活かし、今後の学術活動にも役立てていきたいと思っています。

大橋 勝春（三島総合病院） 渡邊 正博（浜松医療センター）

【臨床微生物部門】

数年前に浜松での学会開催の決定が通告され、スキルアップセミナーの企画がそれぞれの部門に一任されたところから始まりました。

同時にシンポジウムと教育講演のテーマ決定が必要だったことから、スキルアップセミナーのテーマ選定にとっても苦慮したことを覚えています。当部門では、「質量分析・PCRがあっても欠かせない従来の同定法」をスキルアップセミナーのテーマにしました。

それぞれのテーマが決まってから、講師・司会の選出、時間枠の決定などいろいろと課題が次から次に出てきました。しかし、当部門員一同は日常業務多忙の中、全国学会の開催に協力できるのは幸運だと「できることはやりますよ」とお互い協力しながら達成できた学会でした。

上村 桂一（中東遠総合医療センター）

【臨床生理部門】

企画にあたり、全国の生理検査担当者が今知りたいことは何か。をまず考えました。当日までは、皆様に足を運んでもらえるか不安もありましたが、立ち見になってしまう企画もあり、大盛況に終わることができました。運営スタッフとして学会に携われたことは非常に貴重な経験でした。この経験を県内の研修会で活かせるよう、これからも努力していきたいと思っています。

杉山 聡（富士脳障害研究所附属病院）

